



認知症疾患医療連携研修会 開催報告

日時：令和2年10月23日（金）17:30～18:30

場所：北見赤十字病院 北館 多目的ホールミント

『認知症に係わる施設・事業所におけるコロナ対策』

北見赤十字病院 認知症疾患医療センター副室長（認知症看護認定看護師）福島恵美子看護師長より、高齢者施設・事業所におけるコロナ対策についてお話をしました。当日は北見・網走地域の医療・介護・福祉関係者 63 名にご参加いただきました。

今回の研修会は、認知症者を含む要介護者等の支援における新型コロナウイルス感染症対策を学ぶ「知識・知恵・工夫の共有」を目的に開催しました。

研修会開催に先立ち、当センターにて、R2年8月北見近郊の認知症に係わる施設（通所・入所）を対象に、新型コロナウイルス感染症対策に関するアンケート調査を実施、関係者133名の回答を集計し資料にまとめ配布致しました。

アンケート結果からは、主に以下の内容についてお話ししました。

- ・マスクの装着が困難
- ・利用者同士のソーシャルディスタンス
- ・ゾーニング（隔離について）
- ・面会制限（入所施設）
- ・職員のソーシャルディスタンス

いずれも感染予防と当事者の生活の質との間で倫理的ジレンマが生じる問題であると指摘。施設毎に方針を定め、柔軟に折り合いをつけていくべきと話されました。

また、手袋の着脱方法と注意点のDVDやクラスターが発生した障害者支援施設への医療チーム派遣の事例を交えて、実践的な知識がレクチャーされました。

さらに、当院感染症看護専門看護師・感染管理認定看護師から、日々現場で感染対策に悩む参加者の皆様へのメッセージをお伝えし、感染対策に関する資料をお渡ししました。



最後に、まとめとして認知症の方に100%の感染対策を求めるのは困難。支援者ができる範囲で気遣うことや、感染者が発生する前にはできる限り予防策を、感染疑いが発生したら感染を広げないための初動が重要。もし感染者が出た場合の職員のこころのケアも大切と話されました。

今後も参加者のニーズに応じた実践に活かせる研修会を企画していきたいと考えております。

（認知症疾患医療センター事務局 伊藤 記）